# アニメ・漫画を生かした地域づくり

**山﨑 晴恵**（やまさき はるえ）
宝塚（たからづか）市長（兵庫県）

**賴重 秀一**（よりしげ しゅういち）
沼津（ぬまづ）市長（静岡県）

司会・コーディネーター
**細川 珠生**（ほそかわ たまお）
政治ジャーナリスト

**依光 晃一郎**（よりみつ こういちろう）
香美（かみ）市長（高知県）

**伊達 憲太郎**（だて けんたろう）
境港（さかいみなと）市長（鳥取県）

アニメ・漫画は、人々に娯楽を提供するだけでなく、地域の文化を振興し、経済を活性化させる潜在的な力を持っています。また、海外の人々が日本に関心を持ち、理解を深めるきっかけにもなっています。近年は作家にゆかりのある地域や作品の舞台、モデルとなった地域などに「聖地巡礼」と称して多くのファンが訪れるアニメツーリズムが注目されており、観光客の誘致など、アニメ・漫画を新たな観光の柱として見直す自治体も増えています。さらに、広報やまちづくりに人気作品のキャラクターを積極的に活用する自治体も少なくありません。

座談会では賴重・沼津市長、山﨑・宝塚市長、伊達・境港市長、依光・香美市長にお集まりいただき、アニメ・漫画を核にした地域振興、市民や民間との協働体制の構築、現状の課題と実践自治体同士の連携の重要性などについて語っていただきました。

（本文中の役職名・敬称は一部省略しています）

## アニメ・漫画を核にした地域振興

**細川**　国際的にも高い評価を受ける日本のアニメ・漫画は、地域活性化や文化振興など、さまざまな分野で地域に貢献できる魅力的なコンテンツです。それでは、各都市で推進されている取り組みについて、お話しいただきたいと思います。

**人気アニメの舞台として官民でコラボ企画を実施。多くのファンが沼津市を訪れるようになりました。**

**賴重 秀一**
**沼津市長（静岡県）**

**賴重**　沼津市は、平成28年、29年にテレビ放送され、令和元年に映画も公開された、人気アニメ『ラブライブ！サンシャイン!!』の舞台となったまちです。ある女子高校で結成された架空のアイドルグループの奮闘と成長を描いた作品ですが、劇中に登場するのは実際の沼津市の風景。市内の内浦地区のロケーションや景観の美しさが決め手となって、舞台に選ばれたと聞いています。

テレビ放送が始まり、話題になって以来、多くのファンが「聖地巡礼」という形で、沼津市を訪れるようになりました。民間でもその活況を取り込もうと、バスやタクシーなどの公共交通機関のラッピング広告の展開、協力店舗に設置されたスタンプを押して、作品舞台を巡る「沼津まちあるきスタンプ」の実施、地元商店街やホテルなどによる定期的なイベント開催など、多様なコラボ企画に取り組まれてきました。

沼津市としても、作品キャラクターの観光大使（「燦々（さんさん）ぬまづ大使」）への任命や観光PR動画の制作、クラウドファンディングを活用したオリジナルマンホールやふるさと納税のノベルティの制作など、『ラブライブ！サンシャイン!!』を活用した地域振興に取り組んできました。作品とコラボした各種ポスター制作も行い、一般販売もしたところ、すぐに売り切れとなるほどの人気でした。

おかげさまで、作品の主要舞台である内浦地区の「三の浦総合案内所」を訪れた人の数は、アニメ放送前に比べて、ピーク時（平成29年8月）には約20倍を記録。新型コロナの感染拡大で集客数が落ち込んだ時期もありましたが、今はコロナ禍前の水準まで回復しました。7月には同作のスピンオフ作品も放送予定で、さらなる活性化への期待が高まっています。

**山﨑**　宝塚市はマンガの神様と呼ばれ、日本のアニメーションの発展に寄与した手塚治虫先生が、5歳から24歳までを過ごしたまちです。戦争体験はもとより、豊かな自然の中で昆虫採集に明け暮れ、やがて母親に連れられて宝塚歌劇を何度も観劇した宝塚での経験は、その後の作品世界にも大きな影響を与えました。そんな手塚治虫先生ゆかりの地である宝塚市は、その偉業を広く後世に伝え、未来を担う青少年に夢と希望を与える施設として、平成6年に「宝塚市立手塚治虫記念館」を設立しました。手塚先生が作品の中で訴えてきた「自然への愛」と「生命の尊さ」を基本テーマに、小学生のときに描い

大勢のファンが集まった「あげつち商店街クリスマスパーティー」の様子（沼津市）

## 手塚作品の哲学を若い世代に訴求し新たなファンの開拓につなげたいです。

山﨑 晴恵
宝塚市長（兵庫県）

た漫画の肉筆本の展示や膨大なライブラリーなど、手塚ワールドを存分に堪能できる施設です。

宝塚市でも、手塚作品をまちづくりに積極的に活用しています。平成21年には『リボンの騎士』の主人公であるサファイアを観光大使に起用する取り組みも始めました。公募で選ばれた2名がサファイアをイメージした衣装をまとい、各種イベントや式典への参加などを通じて、まちの魅力を広く発信しています。さらに、ふるさと納税の返礼品にも、手塚作品を用意しているほか、記念館近隣の飲食店の協力を得て、企画展のテーマをイメージした特別メニューを提供する「飲食コラボ」の取り組みも進めています。さらに、駅から記念館に向かうルートに作品キャラクターのパネルを歩道に埋め込んだ「足元サイン」を設置したり、記念館に隣接した「宝塚市立文化芸術センター」の庭園に、手塚作品のオブジェを設置するなど、工夫をこらしてPRしています。

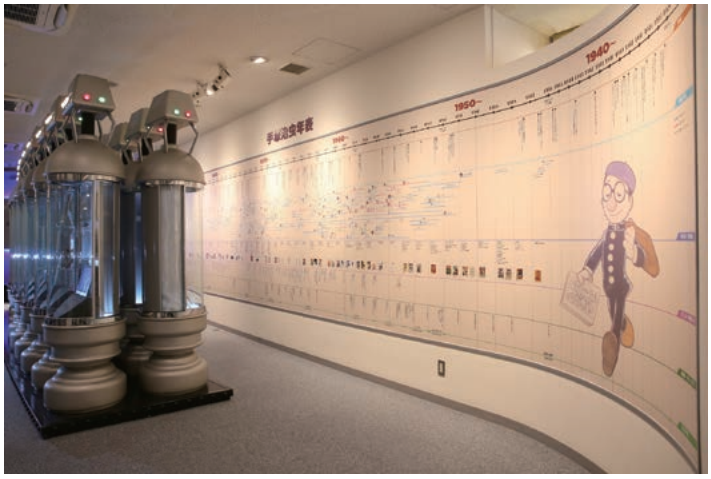
**伊達**　『ゲゲゲの鬼太郎』の作者・水木しげる先生の出身地である境港市では、そのご縁を生かして、水木作品に登場する妖怪ブロンズ像を商店街沿道に設置する「水木しげるロード」の整備を始めました。平成5年当初、ブロンズ像の数は23体に過ぎませんでしたが、年を経るごとにその数を増やし、これまでに設置したブロンズ像は177体にも上ります。さらに、平成15年には「水木しげる記念館」も整備しました。

衰退が著しかった商店街の活性化を目的に始めた事業でしたが、境港市の新たな地域資源に「妖怪」が加わったことで、市の認知度は飛躍的に向上。鬼太郎や妖怪たちをラッピングした列車、バス、フェリーが運行されるなど、地域を挙げたPRも奏功し、これまでに水木しげるロードを訪れた観光客は約4300万人、水木しげる記念館の入館者は約450万人と、観光都市として大きく発展するに至りました。

当初はハード整備もソフト事業も行政主導で進めましたが、整備事業が始まって5年後には周辺の店舗が中心となって「水木しげるロード振興会」を結成。各種イベントをはじめ、妖怪をモチーフとしたソフト事業が民間主体で力強く展開され、地域は元気を取り戻していきました。

平成30年には、通過型観光地から滞在型観光地への移行を目指し、水木しげるロードの大規模リニューアルを実施。夜間の妖怪影絵の投影を始めるなど、官民一体となって、夜のにぎわい創出にも取り組んでいます。

**依光**　アンパンマンの作者・やなせたかし先生の出身地である香北町（現・香美市）では、先生からの多額のご寄付を基に、やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団（以下、財団）を設立し、その財団に作品をご寄贈いただく形で、「香北町立（現香美市立）やなせたかし記念館 アンパンマンミュージアム」を平成8年に整備しました。その後も、先生からの建築寄



手塚ワールドを存分に堪能できる「宝塚市立手塚治虫記念館」（宝塚市）

贈により、平成10年には「詩とメルヘン絵本館」が開館しました。令和3年6月末時点で、延べ435万人が訪れた、香美市を代表する人気の観光施設としてにぎわいを見せています。

先生は漫画家としてだけではなく、絵本作家、詩人、作詞家、編集者と多くの分野で活躍されましたが、その根底には、常に人間愛にあふれた独自の哲学がありました。自分の身を犠牲にしてまでも他者を救おうという哲学です。他にも、先生が作詞したアンパンマンのマーチで歌われている「愛と勇気」。ここでの勇気とは、弱いヒーローが「愛をなすための勇気」です。そして全国に、地域を元気にするご当地キャラクターも残してくれました。

また、財団ではやなせ先生の遺言により、平成29年に「やなせたかし文化賞」が創設されました。財団はこの賞を通じて、第2のやなせ先生となるような、将来一層の活躍が期待される作家個人や団体を奨励していきたいと考えています。

また、本年はアンパンマンの絵本誕生から50年、先生が編集長を務められた雑誌「詩とメルヘン」創刊から50年、そして没後10年と、大きな節目の年を迎えています。他都市の取り組みなども参考に、やなせ先生の生涯を伝えることのできる施設建設に向けて、財団が中心となり現在準備をしているところです。

**「妖怪」が地域資源に加わったことで商店街活性化にとどまらず観光地として大きく発展するに至りました。**

伊達 憲太郎
境港市長（鳥取県）

## 市民・民間企業との協働体制を確立

**細川**　どんな優れた取り組みも、行政の力だけでは大きな事業になりません。市民や民間企業とうまく協働するために、工夫している点などはありますか。

**伊達**　水木先生は、常にふるさと境港市を応援してくれた地域の大恩人です。民間事業者が妖怪を生かしたまちづくりを進めやすい環境をつくっていただきました。それがまちの発展に大きく寄与したと思います。そのご恩を誰もが感じているからこそ、民間の意識も高いですね。地域が一体となって、観光まちづくりに取り組むことができているのも、そこに要因があると思います。

**依光**　市民や民間と連携してまちづくりを進めるためにも、キャラクターを効果的に活用したいですね。版権の問題から、『それいけ！アンパンマン』のキャラクターをまちづくりに使うことはできませんが、先生はさまざまなキャラクターをふるさとに残してくださいました。例を挙げると、星のキャラクター「カミーティア」です。香美市は、日本で唯一の石鉄隕石（いんせき）「在所隕石」が落下した地域でもあり、星を観光資源として売り出していく計画です。やなせ先生のご実家近くに落ちたこともあり、流れ星から生まれたアニメ版のアンパンマン誕生のモチーフになったのではと思っています。クリエーターとも連携して、効果的な活用策を考えていきた

境港駅前に設置された「水木しげる先生執筆中」とキャラクターたち。左上は大勢の人でにぎわう「水木しげるロード」（境港市）　©水木プロ

## やなせたかし先生の人間愛にあふれた独自の作品哲学を広く伝えるミュージアムを目指しています。

依光 晃一郎
香美市長（高知県）

いと思います。

**賴重**　通常、アニメの聖地として地域が盛り上がるのは1、2年程度といわれていますが、アニメ放送が終了し、6年以上が経過しても、いまだに沼津市を訪れるファンは後を絶ちません。聖地としての沼津の人気が一過性のものとならなかった背景に、ファンと地域の間で緊密な関係が構築できた点も挙げられます。関連のイベント開催など、民間の地道な取り組みはもちろんですが、住民の皆さんも、地域を訪れたファンの方々に日常的に声掛けをするなど、自然な形でおもてなしをするようになりました。交流人口が増え、地域ににぎわいが生まれる一方で、聖地を訪れるファンも、地元の人たちと交流を重ねる中で、より沼津市に愛着を感じてくださっているようです。中には、移住してくださったファンの皆さまも大勢おります。

**山﨑**　本市の政策アドバイザーの平田オリザさんは、ご著書の中で「文化の自己決定能力」について述べられています。自分たちが誇りに思う文化は何か、そこにどんな付加価値を付ければ人が来てくれるか。そうしたことを市民一人一人が主体的に考え、判断できる能力のことです。実際、宝塚市民は自分たちの文化に誇りを持っています。市民が中心となって、手塚治虫先生ゆかりの場所を巡る取り組みもあります。宝塚の文化資源をどのように位置づけて、施策に結び付けていくのか。市民と連携しながら、取り組みを進めていきたいと思います。

### どこに課題を感じているか

**細川**　現状における課題についてもお聞かせください。

**山﨑**　手塚治虫先生は多数の作品を残されたとはいえ、亡くなられた以上、新しい作品が頻繁につくられる状況にはありません。これまでの作品をどのように生かして、その哲学や世界観を後世に伝えていくかが大きな課題です。

**伊達**　幸いなことに『ゲゲゲの鬼太郎』をはじめとした水木作品は実写化を含めて、多数映像化されていますし、関連のドラマも制作され、話題となるなど、新しいファンも増えています。

また、地域の取り組みが全国の皆さんに伝わるためには、メディアの力も欠かせません。特に全国版のテレビで取り上げられると、相当な宣伝効果が生まれますから、マスコミにはまちづくりを含めて、各種情報を積極的に提供するようにしています。

**依光**　多くの人にアンパンマンミュージアムを訪れてもらいたいと考えていますが、入館者の中心は幼少期の子どもたちやそのご家族です。近年はコロナ禍の影響に加え、少子化で入場者数も減少しており、頭を悩ませています。

**山﨑**　宝塚市では、逆にファンの高齢化という問題に悩まされています。タイムリーに手塚作品に触れていた人たちは、今では高齢になっておられますから、やはり若い世代に興味を持ってもらい、新たなファンづくりにつなげたいですね。その観点から、記念館では近年、『新世

香美市立やなせたかし記念館 アンパンマンミュージアム（香美市）
©やなせたかし　©やなせたかし／フレーベル館・TMS・NTV

紀エヴァンゲリオン』など、人気のアニメ作品やゲームとコラボレーションした「企画展」も開催しています。

手塚治虫先生が生きていた時代とは情報量もメディアの内容も大きく異なる中で、いかに手塚作品を若い人たちに訴求していくのか、改めて考えていく必要があると思います。

**賴重**　先ほど作品舞台を訪れたファンと、地域住民が良好な関係を築いている実態をご紹介しましたが、当初はファンが私有地に入り込んでしまったり、無断で写真を撮影したりして、トラブルが生じたこともありました。行政としても、地域や近隣の学校を対象に説明会を開催したり、HPで注意喚起を行うなど、対策を進めてきたことで、今ではほとんどトラブルはなくなりましたが、外国人のファンが増えるとまた問題が生じる可能性もあります。ルールを認識してもらいながら、聖地巡礼を楽しんでいただくために、今後も必要に応じて、対策を進めていきたいです。

**伊達**　昨年は水木先生の生誕100周年を迎えましたが、境港市では「これからの100年」を見据えた取り組みとして、記念館の建て替え事業を進めています。令和6年4月のオープンを予定している新記念館では、「境港と水木しげる」「戦争と水木しげる」「漫画家・水木しげる」「妖怪研究家・水木しげる」をテーマとした展示をしたいと思います。

細川 珠生
政治ジャーナリスト

## 実践自治体同士の連携で アニメ・漫画文化のさらなる発展へ

**細川**　各都市ともさまざまな切り口でアニメ・漫画をまちづくりに活用されていますね。さらに成果を上げるためにも、それぞれの都市が連携を深め、情報共有を図ることも重要ではないでしょうか。

**伊達**　確かにそうですね。各都市が事例を持ち寄る形で、アニメや漫画に関するサミットができれば、より盛り上がると思います。

**賴重**　これまでそうした場が存在していなかったのが不思議なぐらいですね。われわれ以外にもアニメ・漫画を生かした地域づくりを実践している都市も数多くあります。サミットなどの機会を通じて、事例共有や意見交換できればありがたいですね。

**山﨑**　私たちはアニメ・漫画という強力なコンテンツを持っています。海外からこれを目当てに観光客が訪れるだけの魅力的なコンテンツです。各都市で連携し、いろいろな悩みや課題を共有する中で、これまで以上に、アニメや漫画を生かして、地域を活性化させる方策を探っていきたいと考えています。

**依光**　かつて漫画やアニメは社会的に軽んじられた時代もありましたが、今や教育分野にも取り入れられるほど、その価値が見直されています。現に、多くの自治体で多様な施策が展開されていますから、それぞれの取り組み事例を共有できる機会を設ければ、さらにアニメ・漫画文化の発展につながると思います。

**細川**　市民や民間と連携しながら、アニメや漫画を地域のプロモーションツールとして用いたり、地域文化の振興につなげたりと、さまざまな活用策をお聞きしました。地域活性化の起爆剤としてのポテンシャルの大きさについても、改めて認識させられました。今後は各自治体が連携して、多くの事例を学び合うことで、より効果的な施策の推進につなげていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

（令和5年6月7日、全国都市会館にて開催）

本コーナーは隔月掲載となります。次回は9月号に掲載予定です。